

第10回記念大会「全国中学校ヨット選手権大会」開催

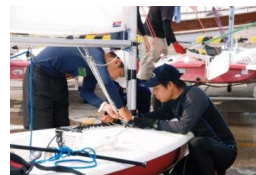
会場は日本海側最大規模を誇る富山県射水市の海竜マリンパーク



出艇を校歌で見送る…そんな光景もこの大会ならではの

選手たちは、それぞれの学校の代表として誇りを胸に参加している、そんな様子があちらこちらで見られたのもこの大会ならではの。インターハイや大学の学連のヨット大会と同じ雰囲気を感じました。

校旗やヨット部旗を掲げて参加し、上下関係もはっきりとしているようです。ジュニアセーラーの経験者でも、中学校1年生は下積みとして応援役に回ります。トロリーの撤去や準備は1年生の仕事。フィッティングをチェックするのは3年生の先輩です。艇も学校所有のせいか、年季の入ったものが多かったようです。またスロープから出艇の際に、1年生が校歌を歌い応援する光景は、この大会ならではの清々しいものでした。



第10回目の記念大会となる全国中学校ヨット選手権大会が、7月27日(金)～29日(日)の3日間にわたり、富山県射水市の海竜マリンパークにて開催されました。会場となった海竜マリンパークは2000年に開催された富山国体のヨット競技会場として建設された施設を利用したマリーナ。富山湾に面し、日本海側では最大の規模をほこる立派な会場でした。

大会には29中学校・79選手(OP級38艇、ミニホッパー級22艇、シーホッパー級SR19艇)が参加しました。中学校のヨット部在籍生徒として参加したのは、鶴岡市立温海中学校(山形県)5名、射水市立射北中学校(富山県)17名、千葉市立磯部第一中学校(千葉県)13名、千葉市立稲毛高等学校附属中学校(千葉県)4名、逗子開成中学校(神奈川県)10名、香南市立夜須中学校(高知県)2名、香南市立野市中学校(高知県)2名、山中湖村立山中湖中学校(山梨県)2名の55名。この他に24名の選手は、ジュニアヨットクラブの所属で各自の学校の校長の承認を得ての参加でした。そのなかで、温海中学校と夜須中学校は、ヨット部の廃部が決まっているとのことでした。それぞれの部の事情とはいえ、とても残念です。



艇庫に大切に保管されていたオールアルミ製のOP艇を発見しました。聞くところによると富山県セーリング連盟の発案に賛同して、JJYUが日本財団の助成金を受けて制作したということです。重さは何kgなのかな、スピードはどれ位出るのかな。

国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2011(愛知県蒲郡市海陽ヨットハーバーで開催)の参加者に配布したTシャツを着ていた保護者の方を発見。うれしい。

